



中 建 第 60 号

平成20年10月10日

国土交通省道路局長 殿

中泊町長 小 野 俊 逸



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成20年9月19日付で依頼のあったこのことについて、別紙のとおり提出しますので、よろしくお願いします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

青 森 県 中 泊 町

その地域にとって真に必要な道路を選定し、その事業のスピードアップを図ることが必要。

津軽半島を縦断する広域農道「こめ米ロード」は、国道339号のバイパスの役割を果たしていることから国道又は県道に所管替えしてもらいたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

青森県 中泊町

○現状

国道339号を幹線として、主要地方道1路線、一般県道6路線あり、東津軽郡、五所川原市、つがる市を結ぶ幹線道路として重要な役割を果たしている。特に飛び合併である当町の小泊地域と中里地域を結ぶ重要な幹線道路となっている。

町道の整備状況は、人家連たん区域はほぼ整備されているが、全体的に見ると舗装率、改良率が40～20%と低く整備が遅れている。

広域農道「こめ米ロード」は、国道339号と並行しており、国道のバイパスの役割を担っており、交通量も多い。

当地域は豪雪及び地吹雪地帯であり、冬期間の道路の安全確保が必要である。また、融雪溝の整備については1集落のみとなっている。

○課題

公共交通機関の整備が立ち遅れている当地域にとって、自動車交通に大きく依存せざるを得ない状況にある。しかし、狭隘で急カーブ、急勾配の区間が多く、日常生活の移動や救急活動に支障をきたしている。当町の飛び地合併ということからも生活幹線道路の整備が課題となっている。

町道については、未舗装、未改良箇所の整備に加えて、既存舗装の老朽化が甚だしく、これの対策も重要な課題となっている。

「こめ米ロード」は、交通量の多いことから舗装の損傷も激しく、防雪柵の建て込み収納費と合わせ、維持管理費が当町の財政を圧迫している。

防雪柵については、未設置区間の早期整備が必要である。また、既存の防雪柵が老朽化し更新時期になったことから、これの解消も課題となっている。

融雪溝は、住民の要望も強く冬期間の歩行者空間確保のためにも整備が必要ある。

②-2 地域の目指すべき将来像

幹線道路(国道339号)の狭隘・急カーブ区間が解消され、津軽半島地域における高規格道路や半島横断道路が整備されることによって、救急医療機関までの時間短縮や生活圏の拡大が図られ、地域住民が快適で活力ある生活が送れる社会。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

青 森 県 中 泊 町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・安全で快適な生活	国道339号七平峠バイパスの早期完成 国道339号北バイパスの早期完成 中核病院(五所川原市)へのアクセス道路の整備	通勤・通院等の時間短縮	
・地域活力の向上	仮称第二津軽大橋の早期完成 地域高規格道路(津軽半島縦貫道路)の整備計画の早期策定	つがる市と当町の交流 津軽半島地域の活性化 救急医療機関までの時間短縮 農林水産物等の物流の高速・効率化 観光振興や生活圏の拡大	
・危機管理の強化	県道三厩～小泊線の整備	国道339号が災害等で通行止めとなった際、小泊地域が孤立する。これを未然に防止する。	